

編 集 後 記

25巻には当初、1号に4名、2号に12名の投稿希望がありました。そのため従来の方法で編集を行うと予算オーバーとなってしまいます。そこで、編集委員会では、紙ベースでの校正を、メール添付のPDFファイルでの校正に変更し、また抜き刷りを有償化して予算内に収めることを提案し、教授会でご承認いただきました。

本号はさまざまな経過を経て、結局投稿者は2名となり、2号との関係では昨年同様きわめてアンバランスな状態になってしまいました。論文としての投稿予定者には、月例研究会で発表していただく規定になっており、5月28日に湯浅先生、6月18日に水尾先生に発表していただきました。

ところで、昨年の24巻1号の編集後記を見ますと、8月になり異常高温が続いていると記されています。本年も全く同様で、東京でも7月31日から8月7日まで連続8日間の猛暑日(35度以上)の新記録となりました。なお、東京の国会議事堂内外では、安保法制を巡る国会議論や反対デモ等で熱くなっており、それも影響しているのでしょうか。ちなみに、大阪、京都では8月10日現在、11日連続の猛暑日が続いており、インドでは4月から6月にかけて、百年に一度という猛暑で、2,300人が死亡したということです。カリフォルニア州でも、7月下旬から8月上旬にかけて発生した山火事で、1万2000人に避難命令が出され、州知事が緊急事態宣言を発令し、最終的に240平方kmが消失したというニュースもあり、まさに地球全体が異常気象に巻き込まれています。何とか有効な手立てを打たなければならないと誰もが考えていることでしょう。

最後に、投稿、寄稿していただいた先生方、発行に関わってお世話になった教務課の伊藤さん、勝美印刷株式会社の北村一紀様に心より御礼申し上げます。

(2015. 8. 11 T.Y.)